

# Racing Topics

## ★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

### ●有馬記念は武豊騎手騎乗のドウデュースが優勝

12月24日(日)に行われた有馬記念(G I)では、ドウデュース(牡4歳/栗東・友道康夫厩舎)が優勝しました。鞍上の武豊騎手は最多タイとなる有馬記念4勝目。また武豊騎手は54歳9か月10日での勝利、G Iレースは81勝目で、自身が持つG I最年長勝利記録および最多勝記録をいずれも更新しました。

### ●中山大障害は石神深一騎手騎乗のマイネルグロンが優勝

12月23日(土)に行われた中山大障害(J・G I)ではマイネルグロン(牡5歳/美浦・青木孝文厩舎)が優勝、J・G I初出走初制覇を果たしました。

### ●吉田豊騎手が通算1300勝、坂井瑠星騎手が通算400勝を達成

12月23日(土)の5回中山7日・第1レースではシントーハナノボスが1着となり、同馬に騎乗した吉田豊騎手(美浦・フリー)は、史上29人目、現役では14人目となるJRA通算1300勝(1万7708戦目)を達成しました。また同日の5回阪神7日・第7レースではアンジュフィールドが1着となり、同馬に騎乗した坂井瑠星騎手(栗東・矢作芳人厩舎)は、現役46人目となるJRA通算400勝(4350戦目)を達成しました。

### ●吉岡辰弥調教師が通算100勝、森秀行調教師が通算800勝を達成

12月24日(日)の5回阪神8日・第5レースではゴールドバラディンが1着となり、同馬を管理する吉岡辰弥調教師(栗東)は、現役150人目となるJRA通算100勝(延べ875頭目)を達成しました。さらに同日の第9レースとして行われたクリスマスエルフ賞ではダイシンビスケスが1着となり、同馬を管理する森秀行調教師(栗東)は、史上41人目、現役では7人目となるJRA通算800勝(延べ8701頭目)を達成しました。

### ●カフェファラオなどの競走馬登録抹消

2021年・2022年フェブラリース(G I)連覇のカフェファラオ(牡6歳/美浦・堀宣行厩舎/JRA通算11戦6勝・地方4戦1勝・海外2戦0勝)、2023年小倉サマージャンプ(J・G III)の勝ち馬テーオーソクラテス(騾6歳/栗東・奥村豊厩舎/JRA通算24戦7勝)、2020年デイリー杯クイーンC(G III)の勝ち馬ミヤマザクラ(牝6歳/栗東・藤原英昭厩舎/JRA通算10戦2勝)は、11月24日(金)までに競走馬登録を抹消されました。カフェファラオは北海道新ひだか町のアロスタッドで種牡馬、テーオーソクラテスは小倉競馬場で乗馬、ミヤマザクラは北海道安平町のノーザンファームで繁殖馬となる予定。

## ★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

### ●寒菊賞(水沢)は牝馬のレッドオパール【各地の主要2歳重賞】

寒菊賞(12月10日、水沢、1600<sup>円</sup>)は、5番手を進んだ2番人気のレッドオパール(牝、父ニシケンモノノフ)が直線に入って間もなく抜け出し、北海道から転入後2連勝を達成。金沢ヤングチャンピオン(11月21日、金沢、1700<sup>円</sup>)は、逃げた4番人気の北海道デビュー馬リメンバーアポロ(牡、父アポロケンタッキー)が4馬身差で楽勝。ゴールドウィング賞(11月28日、名古屋、1700<sup>円</sup>)は、中団から差を詰めた6番人気の北海道から愛知への移籍馬フークビグマリオン(騾、父ラニ)が、ゴール前で1番人気のミトノユニヴァースを捉えました。フォーマルハウト賞(12月3日、佐賀、1400<sup>円</sup>、牝馬)は、後ろから2頭目という位置から追い上げた2番人気の大井からの遠征馬ファーマティアーズ(父ルーラーシップ)が、残り50<sup>円</sup>で差し切り勝ちを収めています。

### ●12月29日の東京大賞典(大井)で連覇を狙うウシュバテソーロ

東京大賞典(G I、12月29日、大井、2000<sup>円</sup>)は、昨年の覇者ウシュバテソーロが筆頭格、JBCクラシック優勝馬キングズソード、ノットゥルノ、ウィルソンテソーロが続き、以下テンカハル、グロリアムディ、ドゥラエレーデの順に有力視されます。無敗の3歳馬ミックファイア(大井)は、三冠で下した相手が古馬相手に苦戦傾向にあることから、ここが真価を問われる一戦となります。

## ★海外競馬ニュース 文・秋山響★

### ●2023年は3頭の日本調教馬が海外でG 1制覇

今年も日本調教馬が海外で活躍。3頭がG 1を制しました。2月にサウジアラビアで行われたG 1サウジカップ(北半球産馬4歳上・南半球産馬3歳上、ダート1800<sup>米</sup>)に優勝したのがパンサラッサ(牡6歳、父ロードカナロア、栗東・矢作芳人厩舎)。吉田豊騎手を背に逃げる、最後は前年のG 1ドバイワールドC勝ち馬カントリーグラーマーの追い上げを3/4馬身しりぞけて優勝。日本調教馬として同レース初勝利を挙げ、世界最高の1着賞金1000万米<sup>ドル</sup>(当時のレートで約13億5000万円)を手に入れました。3月のUAE・ドバイワールドCデーでは日本調教馬がG 1を連勝。まずC.ルメール騎手が手綱を取ったイクイノックス(牡4歳、父キタサンブラック、美浦・木村哲也厩舎)がG 1ドバイシーマクラシック(北半球産馬4歳上・南半球産馬3歳上、芝2410<sup>米</sup>)で前年の愛ダービー馬ウエストオーパーに3馬身半差をつけるとともに、コースレコード(2分25秒65)をマークして逃げ切ると、続くG 1ドバイワールドC(北半球産馬4歳上・南半球産馬3歳上、ダート2000<sup>米</sup>)ではウシュバテソーロ(牡6歳、父オルフェーヴル、美浦・高木登厩舎)が川田将雅騎手を背に最後方からの追い込みを決め、2011年のヴィクトワールピサ以来2頭目となる日本調教馬による勝利を記録。ダート開催での同レース制覇は日本調教馬初のことでした。